

平成27年度 新潟市家庭部 活動報告

部長 松本 朋子

1 研究主題

できる喜びを感じ、生活をよりよくしようとする子どもの育成
～問題解決的な学習指導の工夫～

2 研究の概要

昨年度の研修を受け、今年度は問題解決的な学習を行うための学習課題を子どもの思考から引き出すような学習展開を工夫することに焦点をあてて研修を行った。具体的には、部員を少人数のグループに分け、グループごとに指導計画を立て、模擬授業をし、互いに批評し合うという方法である。特に学習課題に到るまでの授業の冒頭の部分を中心に研修を行った。

授業研究の他に、教科書が改訂になったことを受け、編集者の方から教科書の内容について詳しく説明を聞く機会を設けた。また、今回の改訂で重視されるようになった消費者教育についても、小学校の家庭科教育における消費者教育の進め方について金融広報委員会の方から講演をいただくなど外部の講師を招いての研修も行った。

3 研究の実際

(1) 模擬授業（8月5日指導計画作成 9月9日模擬授業実施）

部員を4つのグループに分け、それぞれのグループで取り組みたい題材の指導計画を作成し、模擬授業を行った。各グループが取り組んだ題材は以下の通りである。

- ・Aグループ→第5学年「寒い冬を快適に」
- ・Bグループ→第6学年「いためてつくろう 朝食のおかず」
- ・Cグループ→第5学年「寒い冬を快適に」
- ・Dグループ→第5学年「食べて元気に ～ごはんのみそ汁を作ろう～」

Aグループは、不快に感じる部屋を2つ（暑すぎる部屋と寒い部屋）用意し、子どもたちがそれぞれどんな感じ方をしたか意見を聞き合う活動を通して課題をつかませる工夫をしていた。Bグループは、前時に野菜炒めの試しの実習をしたことの振り返りから入り、失敗しないためのポイントを考えさせる方法であった。Cグループは、暖かい地方からの転校生が薄着で風邪を引いてしまったという設定を子どもたちに伝え、そこから課題を引き出す工夫をしていた。Dグループは、あらかじめ用意した失敗作のみそ汁を子どもたちに試食させ、よくないと感じる理由からおいしいみそ汁を作る学習課題を設定していた。それぞれの模擬授業のあとに各グループが発表グループのよかった点や改善点をファシリテーションし、意見を出し合った。この研修を通し、実際の授業場面でのより具体的な指導方法が明らかになった。

(2) その他

6月の全体研修では、峰村商店（味噌）において、味噌造り体験をした。

7月の研修では、教科書の内容について編集者から詳細に説明をしてもらった。編集の際にどんな工夫をしているのか、どういう使い方をするとよいのかなど、授業で使う際のポイントを理解することができた。

11月の研修では、消費者教育について金融広報委員会の方からお話いただいた。授業で使えるような資料を多数提示していただき、具体的な実践事例を教えていただいた。

12月には、アグリパークで実習研修を行った。子どもたちが体験する半日コースで、搾乳体験と、バター作りを行った。「命をいただく意味を学ぶ」というカリキュラムづくりの大切さを実感する研修になった。

4 成果と課題

少ない部員数の中で実際に家庭科授業を担当している部員も僅かである。そのため今年度は、代表者による授業研究公開という形をとらず、全員が模擬授業をすることで、部員一人一人がより主体的に授業について考えることができた。今年度行った模擬授業は、各校で個々の実践の参考にしたり、来年度の授業研究に生かしたりすることで、どんな手立てが有効であるのかを継続検証していくことにしている。実際に授業を担当していない部員が多くなる現状の中で、いかに授業力改善に向けた研修を進めていくかが課題である。